



野山の新緑がまぶしい季節となり、伊豆沼・内沼でも賑やかな鳥のさえずりや、コイやフナの子魚の産卵風景が見られるようになって来ました。

Vol.131

令和3年度5月号

水生植物園を整備しています



当財団では、伊豆沼特有の水生植物を保全しながら、自然保護の啓発を図ることを目的に、水生植物園の再整備を行っています。水生植物園では、希少生物の保護・増殖や天然の湿原の保管理と、伊豆沼特有の景観を再現し、美しい草花などに親しんでもらうことを考えています。手始めに園内の雑木伐採と水路整備を進め、野生カキツバタの群落の植栽を予定しています。今後、皆様に美しい景観を楽しんで頂けることとなります。

電気ショッカーボートによる外来魚駆除を実施します

4月下旬から6月上旬にかけて、電気ショッカーボートによる外来魚駆除活動を実施します。これまでの駆除活動により、最近ではモツゴやタモロコなどの小型魚だけでなく、フナ類やコイの幼魚、ゼニタナゴといった希少魚も見られるようになってきています。今年度も魚類群集保全のための活動を行いますので、ご理解ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



新職員も
ただ今
特訓中



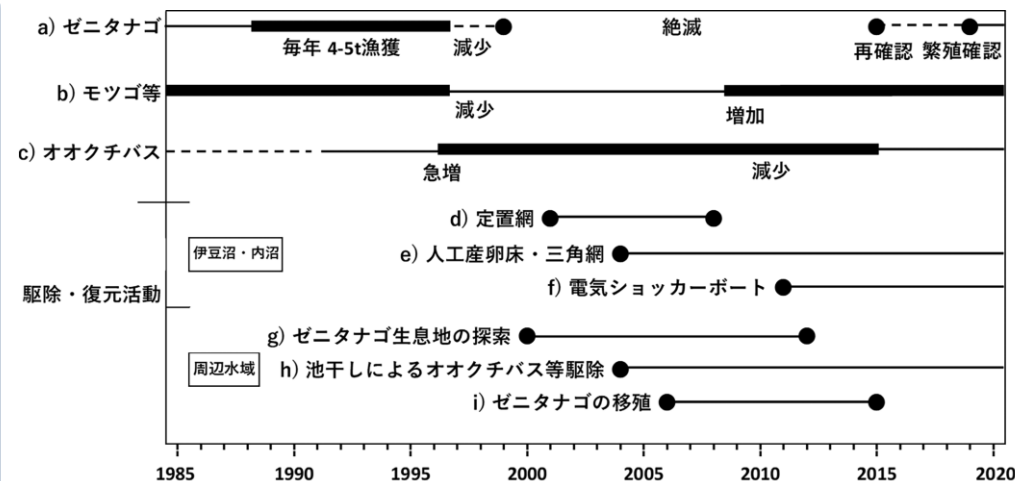
定置網調査で捕獲された多様な魚たち

2004年から駆除活動を行っているバス・バスターズ。その活動により、オオクチバスは大きく減少。目標としていた沼の希少魚であるゼニタナゴは、2015年に再発見されました。今回、そのゼニタナゴが沼で繁殖し始めたことを確認しました。

ゼニタナゴは日本の淡水魚の中でも絶滅の危険性が最も高いとされる希少魚の一つ。それが湖沼で繁殖するまで復活した例は国内初となります。日本魚類学会HPに詳しい内容が書かれた論文が掲載されます。誰でもご覧になれるので、ぜひご覧ください。（2021年4月発行号に掲載予定（執筆時））。

右のURLから参照可能です。http://www.fish-isj.jp/publication/

伊豆沼・内沼におけるゼニタナゴとオオクチバスの生息状況と駆除・復元活動に関する年表。



太線はその魚種が特に多く確認されていた期間を、点線は少数の個体しか確認されていなかった期間を示す。



バス・バスターズによる駆除活動の様子。人工産卵床を水上に上げて、オオクチバスの産卵の有無を確認している様子（写真上）と、オオクチバスの卵が産み付けられた人工産卵床（写真下）。

水面近くで遊泳していたゼニタナゴ稚魚



スケールは10 mm を示す。

成魚になったゼニタナゴは、当センター内の水槽で見られますよ。



今年度もバス・バスターズは中止、自然体験講座は一部中止に

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下のように令和3年度も一部活動の中止や縮小をいたします。ご理解の程、よろしくお願いいたします。

◆バス・バスターズの活動を中止します。

昨年度に引き続き、今年度もバス・バスターズの活動を中止いたします。

◆自然体験講座は、新型コロナの感染状況を見ながら10月からの開催を予定しています。

参加者の募集は8月頃に行う予定です。

10月まで
待っててね。



新職員紹介



研究補助 福田 亘佑

水産試験場で1年勤務し、こちらに来ました。伊豆沼・内沼の自然が保たれるよう頑張ります。

